

第2回第三期高知市中活計画策定検討委員会

議事概要

日時 令和4年3月30日(水) 10:00~12:00

場所 高知市本庁舎 6階 会議室

出席者 【委員】

古谷純代(委員長), 安藤浩二(副委員長), 黒瀬裕之, 北村和代, 中田陽子, 森恒一郎, 笹岡和泉, 石筒覚, 梶原太一

【オブザーバー】

吉良善邦(代理出席), 山下修, 福留正充(代理出席), 山本聡, 岡林成海, 松村和明

次第 1 開会 2 新委員の紹介
3 議事 4 その他

1 開会

2 新委員の紹介

事務局より新委員を紹介。

3 議事

○議題

- (1) 第二期 高知市中心市街地活性化基本計画の検証
- (2) 中心市街地の現状分析
- (3) 中心市街地における課題

○主な質疑等

※次の文言については省略して記載します。

中心市街地活性化基本計画→中活計画

【副委員長】

資料2 P16の高知市の観光客入込数について、これは宿泊者数を示すものか。

<事務局>

これは宿泊者数ではなく、県内に入った観光客数のうち、高知市に入った観光客数を割り出したものである。P30のレンタサイクルの利用状況についても宿泊者数から出しているものではない。

【副委員長】

レンタサイクルについて、宿泊施設には総数で何台あるか。

【委員長】

各宿泊施設で5~10台は保有している。コロナ前は、観光客が増加し、レンタサイクルの利用が多くみられた。事前予約で受付しているが、貸し出しくても保有台数に限りがあり、一人のお客さんが長時間利用されると次のお客さんに貸し出せないという現状もあった。コロナ前では、各施設でレンタサ

イクルを増やすべきか検討していた。一般観光客からも貸し出して欲しいというオファーもあったが、宿泊者を優先して対応していたところである。

【委員】

追手筋沿いのフェニックスの木、高知城の丸ノ内緑地、駅から南北に行く南国的な道などを夜ライトアップすれば、映える写真が撮れるのではないか。夜の魅力づくりとして高知市では食べ物がおいしいことや飲食店が多いことが挙げられるが、映える写真が撮れるなどまちあるきのきっかけがほしい。ライトアップなどがあれば夜も活性化する。ナイトタイムエコノミーとして、また、まちあるきの取組として取り組んでみるとよい。活性化に寄与すると思うが過去に議論があったか。

<事務局>

追手筋の有効活用について、市役所で実施した職員提案制度のなかで追手筋のプロムナード構想があり、第三期高知市中活計画への登載含め検討中である。昨年、コロナで疲弊した地域への経済対策として、人を呼び込むためのアートアクアリウムなどのイベントを実施した。その際、追手筋についても、冬の夜にライトアップをして、人を呼び込むことができないか検討していた。しかし、いろいろと課題がある。木の種類が様々であることと、他県で色々な場所でイルミネーションをしているが、あの木の形状で可能か、どのくらいの費用がかかるか等を検討しているところである。全国的にもウォークブルシティとして歩行空間を整備していく中で、人の流れを作っていこうという仕組みを国交省が積極的に制度化しているので、ナイトタイムエコノミーの観点を含めて前向きに検討していきたいと考えている。

【委員】

資料により中心市街地の現況が、様々な数値で見えてきたところではあるが、人口や県外からの集客など、それぞれどのくらいの数値があれば活性化するものなのか、ゴール設定があるか教えていただきたい。

<事務局>

第二期高知市中活計画では、平成30年以前の通行量や人口割合、入館者数などを分析し、それを増やしていこうと目標設定した。今回落ち込んだ前年の数値をどのように取り入れ、今後目標としていくのかというところがある。中心市街地の居住人口の割合、歩行者通行量の増加、拠点施設入館者数の増加を基本目標としつつ、課題を克服していく中で、参考指標を設定して決めていく予定であり、みなさんのご意見をいただきながら新しい数値を設定していければと考えている。

【委員】

コロナにより前提条件が壊れていることは認識している。市民意識調査では、40%を超える人が、中心市街地が活性化していないと答えている。私も同様に感じているが、一方で、若い人は活性化したとも感じている割合の方が多い。若い人は物心ついた頃よりは活性化したと思っているが、我々の世代では青春時代を過ごした当時のことを想像しているため、活性化していないとってしまうのではないかと考えている。色々な世代が共通して活性化していると思えるような目標設定が必要と思われる。

<事務局>

市民意識調査結果の回答者は、比較的年齢の高い方が多いため、高度経済成長期を経験した方々からはそのような指摘を受けている。人口減少の歯止めをかけるのは難しいといった社会状況と、今回のコロナにより生活様式や行動も変わってきたという点も踏まえて、第三期高知市中活計画にどのような成果目標を立て、それをクリアすれば中心市街地が活性化するかということの評価していきたい。肌感覚で活性化しているかどうかを中活計画に記載するものではないため、現在の3つの指標だけでなく、事

業を行っているみなさんからみた目標を踏まえ、設定した目標をクリアするための事業を登載し、活性化させていきたい。

【委員】

市民意識調査結果は分かりやすい統計だが、このアンケートは20歳以上が対象となっている。18歳以上を対象に統計を取る予定はあるか。

よさこい祭りも高知の経済効果に大きく寄与していると感じる。中心市街地に建つマンションは、人口増に寄与するが、高知城の付近にあまりマンションを建ててはいけないなどの制約があるか。人口の増加が本当に活性化につながるのかとも思う。

先日、高知大丸がリニューアルオープンし、近くの駐車場は満車で、かなりの集客があると感じた。

また、去年は期間限定で土日祝日に路面電車・路線バスが無料化されたので、多くの利用があったようであり、色々な形で、中心市街地に人を呼び寄せようという努力が見える。

高知城のライトアップについて、県外のお客さんからは配線が見えて景観が良くないという意見をいただいた。外の日線から気づく部分もあるため、もっと視野を広げないといけないと思ったところである。

<事務局>

市民意識調査について、通学通勤目的の来訪が多くなっている。独自調査にはなるが、学生を対象としたアンケート調査を通して、様々なニーズに考慮していくことが必要と思うため、検討していきたい。

よさこい祭りが2年連続中止ということは非常に残念だが、令和4年は国のほうもウイズコロナの政策に振り切っているということもあり、高知商工会議所のみなさまと話し合いをして開催に向けて支援・検討していきたい。

マンションの建設について、高知城の周辺は高度規制があるが、それ以外の区域では民間の開発事業などがあれば増やすことは可能である。中心市街地に人口が増えることはありがたいことなので、人口増加の上で、商業の活性化に繋げることが大切だと考えている。

高知大丸のリニューアルについては、商店街も協力をいただいている。昨年度実施した電車・バス無料化については、前年度比で2.5倍訪れたという効果も見られている。非常に大きな効果があったため、公共交通を担う市民協働部で再度実施できないかと検討をしている。

ライトアップについて、色々な見方があると思うため、参考にさせていただきたい。また、丸ノ内緑地が工事中ということもあるのでご理解いただきたい。

【委員】

京町商店街で、障がい者や高齢者の方が出かけやすいタウンモビリティの取組やバリアフリー観光窓口の運営をしている。マンションも多くでき、生活圏内や外からも中心市街地に来られる方が安心して滞在する上で、小さな子連れの方のベビーカーの貸し出し利用が増えているが、授乳室やおむつ替えのできるシートのあるトイレがどこにあるか聞かれる。車いすの方が、大人用の介助シートがあるトイレが中心商店街に少なく、もっとあれば安心して出かけられるという意見がある。赤ちゃん連れや障がい者の方が安心して過ごすことができるよう、トイレ整備について、新しくなっているトイレも増えているが、まだ古いままのものがあるため、その取組の方向性があったら教えていただきたい。

<事務局>

さまざまな方に中心市街地を利用していただきたいと考えている。トイレについて、具体的に整備するという計画はないが、中活計画に取り込むことによって予算もつくことから言及していきたい。バリアフリーマップについても引き続き継続して進めていきたい。現状新しくバリアフリーのトイレを整備する話はないが、既存の公園のトイレを整備するにあたってはその視点で更新することを考慮していき

たい。

【委員】

市民意識調査について、中心市街地に重要な施設や機能として、「住宅」と回答している人が1%となっており、市民が必要としない施設であることにギャップを感じた。民間事業者のすることに規制はできないため、これからもマンション建設等は増える予定であるか。中心市街地で、外から訪れる人の目的にならない施設というものがどれほどあるのか。商業施設であれば、外から人がやってくる目的地になる。住んでいない人にとっては、マンションは観光施設にはならない。

【委員長】

既に市内に住居を構えている人はどういうものが欲しいのかという視点も考えられる。

【委員】

市民意識調査で若い方が「活性化された」という回答が多かったことについて、平成20年頃はどん底だったと感じているが、コロナ前までのここ10年は右肩上がりで改善されてきたことが目に見えてきていると思われる。また、インバウンドで商売にも追い風を感じていた。これから再起していくにあたって、どのような形で現状からより良い中心市街地にしていくべきか考える必要がある。

駐車場の件については、10年前から出てきた課題だと思う。郊外に大規模商業施設ができて商店街が衰退してきた。差別化を図る中で、車社会においては駐車場対策が必要という要望は10年前から出ていた。長時間滞在できるまちづくりをすべきであり、駐車場対策の施策、特に中央公園の地下駐車場について駐車料金が必要なのか、中心市街地に人を集めるための施策の考え方について教えていただきたい。

<オブザーバー>

中央公園の駐車場は施設の維持管理をするために駐車料金は必要である。今回のコロナによる駐車場の無料開放は、国の補助金で実施したものである。民間の駐車場もあり、公共の駐車場を安くすると民間事業者を圧迫するので、商店街の滞在者を増やすためだけを目的に無料化は難しいと考えている。中活計画の中でそのような施策の検討は考えられる。

【委員】

滞在者を増やす対策として、分かりやすいところで駐車料金の対応かと考える。

【委員】

資料について、グラフを作る際に、これからは全て目盛りをゼロから始めたものを作っていたいただきたい。数値の比較をする場合に折れ線グラフの形に意味がなくなるので、できるだけゼロスタートのグラフにしていきたい。結果的に非常に見づらいグラフになることもあるかもしれないが、現状分析する際にできるだけ正確に状況把握をしていただければと思う。

市民意識調査について、このデータは興味深いと感じた。色々なクロス集計ができるので、どのような分野でどのような人たちが考えているのか分析できると思う。市民意識と我々の施策の方向性のズレと一致している点を丁寧に見ていく必要がある。それ以外にも付加的な調査が必要になると思うが、この調査が1つの参考資料になる。この資料はコロナ禍で行われているが、コロナ前の過去と比較できる資料がないか確認したい。

活性化の目標値について、第一期、第二期の高知市中活計画について、高知市の中心市街地の活性化の定義はどのように議論されたか。姫路における活性化と高知における活性化は異なると思う。改めて第3期高知市中活計画を検討する中で、中心市街地の活性化のイメージについて、このメンバーで

各々の異なる分野での違う感覚を共有し、お互いの共通認識をもちながら議論することが必要であると考える。活性化の定義は、研究者でも難しいが、チャレンジしていただきたい。1つのものに絞る必要はないので、それを共有し、市民に提供できればよい。

【副委員長】

第一期、第二期の高知市中活計画について、活性化の数値の話は以前から出ていたが、設定が難しい。国の施策に基づいて3つの指標を作っている。

このメンバーで、現在の高知市の中心市街地の臨むべき姿を出し合わないといけないと考えている。できれば簡単な言葉でよいので、事前に事務局に並べていただいて共有しておかないと次の会で発言しても進まないと考える。活発な意見を共有するためのベースが欲しい。そこを事務局にお願いできないかと考えている。

<事務局>

市民意識調査について、過去の調査結果もあるため比較分析は可能である。ベターなところで比較し、報告できればと考える。

中心市街地の活性化の定義について、何が活性化かという点が難しいと考える。これまで、コンセプトや考え方を文字で示し、地域資源の魅力が織りなす暮らしとのマッチを実現しようということを考えてきた。それが活性化ということになる。訪れたいくなるきっかけづくり・滞在したくなる仕組みづくりのため、コンセプトのもとにどうあるべきかを文字で表現することになると思う。

【オブザーバー】

第三期高知市中活計画に入れていただきたいことだが、観光の面でいうと日本全国人口減少しているため、外国人観光客によるインバウンドを増やしていきたい。そのために多言語案内の表示板が設置されているかなどの、現状把握から進めていただきたい。

【委員長】

次回、本日の話をそれぞれの組織に持ち帰り、高知市民であり関係者でもある方々の意見を聞いてこの場に臨んでいただきたい。これが委員会の意見の活性化にもなると思う。

- 報告 中活計画先進地視察報告
事務局から説明。

4 その他

<事務局>

次回の検討委員会について5月下旬を予定。

5 閉会

以上